

2012 佐渡国際トライアスロン大会レポート

開催日：2012年9月2日（日）

棚澤 信 Makoto KURUMISAWA

世界選手権出場からひと月余り、休みも調整も無く、慌ただしく過ごした。この3カ月で4レース目のロングのレース、レース疲れも感じる中、100位以内のシード権を目指そうとモチベーションを上げようとするが、バイクの梱包も無く、出発前の緊張感も薄い。通常の抽選枠の倍率は4倍だったので、出場できることは幸運である。順調に現地入り、同行の先輩方の伝説は豊富で、会場では知り合いも多く、前日は楽しく過ごす。忘れ物こそないが、暑さ対策のグッズは何も考えていなかった。近所の海で少し試泳、少しバイク試走、会場でのセッティングは全て当日の朝だ。ジャパンのウェアで走ることにしたが、補給食を入れるポケットが無いので、バイクジャージを上から着ることにする。

4時過ぎに宿を出発。準備が進むとともに、周囲は明るくなって来る。試泳をするが、遠浅でいくら進んでも腰までの高さ。気持ちだけ泳いだら、時間で岸に戻る。700mのコーナーは近く見える。いつも通り、左のアウトコースに並ぶが、岸が斜めになっていて近いので、人が密集してしまう。スイムスタート、先頭の方はガンガン進んでいくが、自分はそんな練習はしていないので早歩き程度。泳ぎ始めるころには先頭は50m以上前にいる。歩きでばらけたのか、スタート時のバトルはそれほどでもなく、集団を避けて左へ逃げる。集団と離れて左のボードに近づいてしまうが、赤いコーナーのブイはよく見える。イメージでは最短を進んでいるつもりだが、不安で集団に接近するように方向を変えたりして、まっすぐ泳いでいるのかはわからない。第1コーナーを大きく曲がって、やはり集団の外を泳いで第2コーナーへ。時々、ほかの選手と接近してはよける感じで、周りの選手は余り変わらない。第3コーナーを曲がると、突然うねりが激しくなり泳ぎが不自由になり、進まなくなる。周りに選手が集まってきて、不意に激しいバトルとなり、ますます厳しい状況になる。後ろからどんどん選手が来るなか、何とかもがいて、陸までの600mを泳ぎきる。依然遠浅で、歩く部分が長く、ゆっくりと状況確認。先頭は、2周目の第1コーナーに近づいているが、最後尾は第3コーナーを回っていない。2周目は、1周目の経験を活かしてほとんど独泳、確認を増やしてコーナーブイを目指す。水温が高いせいか大きなトラブルもなく、スイムゴールへ。1時間21分55秒（139位）。想定よりタイムは悪いが、まずまずか。

トランジション、オリンピックで見たウェットの脱ぎ方はうまく行って、スムーズに。バイクは慎重な入りで一進一退、細かい上りも意外と長くて、一気にはいけない。相川手前の、宿の前の予想時間7時50分にわずかに遅れ、最初のボトルを飲みきってエイドに。ボトルを2本受け取ったが、暑いし水分の補給が大変そうだ。マイペースで景色を楽しみ

ながら、補給を意識しながらの大佐渡北側。ずっと独走に逆風で、腰も痛み出しペースが上がらない。気合を入れ直した時も30km/hに届かない。Z坂が近づくころ、大人数の集団に追いつかれる。これがドラフティングか、集団に吸収されて32km/hのペースに離されもせず、抜け出せもしない。集団を壊す動きも功を奏さず、止む無く脚を止めて後ろに離脱した。バイクで順位を何十人分も順位を落とした感じだ。Z坂で集団の後ろに追いつき、好天の景色を楽しみながら位置をキープする。鷺崎を過ぎると、追い風に。見通しの悪い区間も多いが、ペースアップして、ポツリポツリだが抜き傾向に。平らな区間が続く、周囲がにぎやかになってくると、両津である。両津あたりからの細かいアップダウンにペースを落とすことも無く、小佐渡を走る。追いつく選手は、Bの選手ばかりになってきた。初めて、バイクのエイドでおにぎりを受けとれた。小木の坂もあまり頑張らずに乗り切って、その後の上りもクリア。海岸線に下りると、強力な逆風で20km/hも出ない。皮がむけかけているのか、左足の裏が痛んで踏むと痛く、靴を緩めて足の向きを変えたり丸めたり、ごまかしごまかし進む。我慢しているうちに商店街に。間もなく、ランとの並走コースになり、速度を落としてバイクゴール。6時間43分26秒（144位）。ここまでで8時間05分21秒（132位）、何とかバイクで順位を落とさなかったという感じだ。

準備をしていなかった炎天下のラン、沿道から知人の80位の声（だまされていた！）。JAPANのウェアのせい、すれ違う選手の視線が止まる。20人抜かれるまで頑張ろうと、暑さの割には頑張っている。周りはBの選手が多いが、抜いていくのはAの選手だ。ぼつぼつだが抜かれ続けて、5kmまでで10人。10km手前で集団に抜かれて、数えられなくなったが、ほとんど20人。そこからの5kmは日が陰ったこともあり、6分/kmくらいでペースが安定、がんばって順位をキープしたが、強力な速い選手が時々抜かれる。最初の折り返しの手前の17km位で失速、急に力尽きた感じで、爽やかなほどともすっきりと潰れた。日が照る中、辛うじて7分半/kmのジョギングを維持して、2杯ずつ飲むエイドを目標に進む。2つめの折り返し、最高気温は36°Cの噂、このペースでは明るいうちのゴールも難しい。いつの間にか、GPSの電池も切れていて、ますますモチベーションが下がる。30km位からは、上りで歩き混じりになる。JAPANの誇りも勝てない。日が落ちても、水を被ると気持ち良い。35km位では暗くなり、気温が下がってきたせいか、水分バランスも整いだしゆっくりジョギング。完走以外の目標は全て失われている。遠くに商店街の明りが見えてきて、急に気持ちが盛り上がる。ハイタッチで焦点を抜けて、ゴール会場へ。何人かの知人からの声援も受けて、ゴール。5時間20分42秒（353位）、トータルタイムは13時間26分03秒（207位）、年代で45位。完走率74%は厳しいレースだったことを表している。

全然ダメな結果の気がしたが、例年並みの順位である。もう今年是十分という気分もあって、対日感情が不安な中国のアジア選手権出場はやめて、オフシーズンに突入した。予定外にハードな4か月だった。